



2021年2月19日（金）

「子宮頸がん検診の運用を考えるフォーラム」

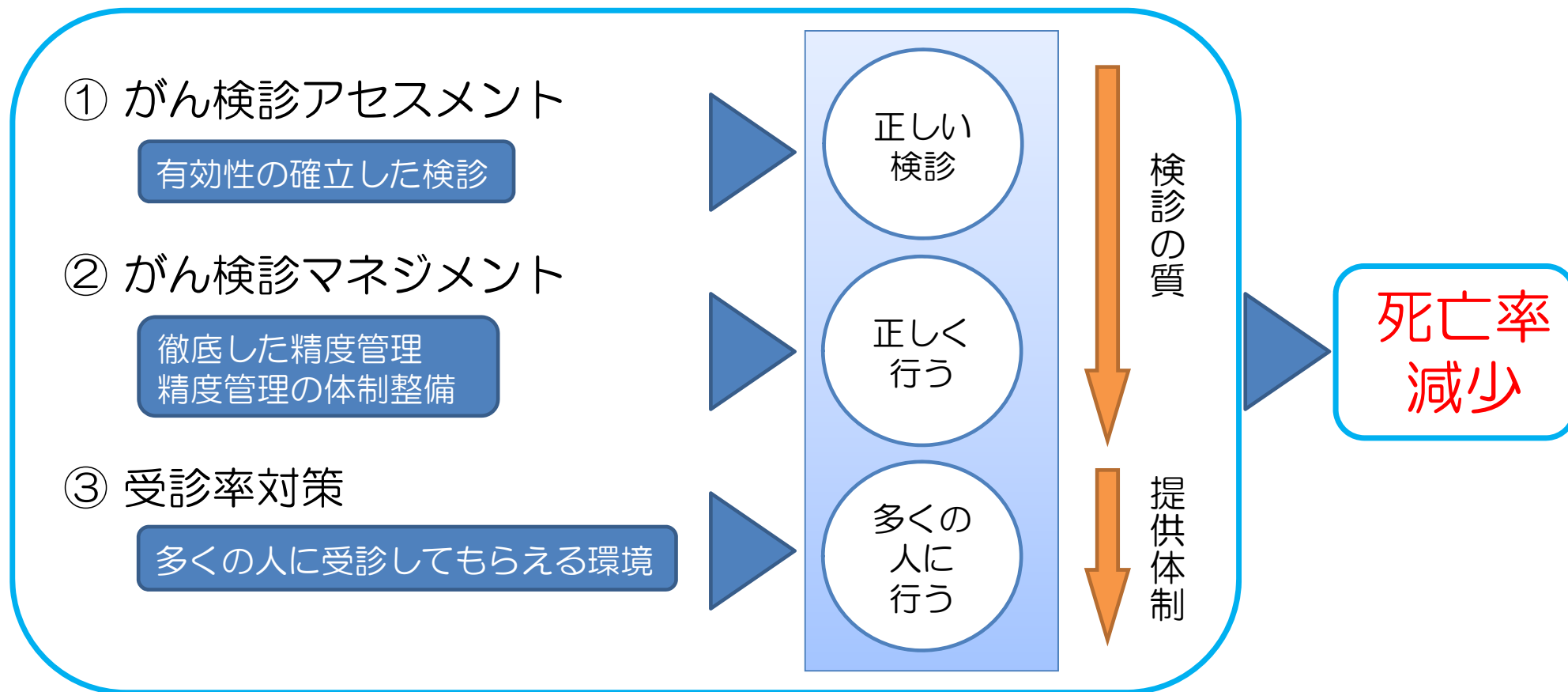
## 本研究\*の背景と概要

\*厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業  
「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」

研究代表者  
慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室

青木 大輔

# がん検診によって死亡率を減少させるためには



## 本研究の背景

2020年7月に「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年度版」が刊行され、  
検診方法として

細胞診単独法（推奨グレード：A）に加えて、  
HPV検査単独法（同：A）、  
細胞診・HPV検査併用法（同：C）が示された

- 海外でHPV検査を用いた有効性が示されている研究は、理想的な精度管理体制が整備できている環境で行われた
- 精度管理体制が十分とは言い難い我が国において同じ効果が上げられる保証はなく、どのような運用方法であれば実施可能か、どのようにすれば受診者がその運用を遵守できるかの工夫と、厳密な精度管理が必要と考えられる
- 市区町村が実施するがん検診の決定には、ガイドラインに加え厚生労働省の「がん検診のあり方検討会」において対象年齢や検診間隔、アルゴリズム等の運用や精度管理方法を決定する必要がある

厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業  
「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」研究班

【目的】

現在のわが国の検診実施体制の下で実現可能性のある子宮頸がん検診のアルゴリズムとその運用方法の検討を行う。さらに実際に運用を行う際に必要となる事項を検討する。

【研究期間】

2019年9月～2021年3月31日

【研究班メンバー】

青木大輔	慶應義塾大学
八重樫伸生	東北大学
藤井多久磨	藤田医科大学
宮城悦子	横浜市立大学
中山富雄	国立がん研究センター
齊藤英子	国際医療福祉大学
高橋宏和	国立がん研究センター
森定 徹	慶應義塾大学
戸澤晃子	聖マリアンナ医科大学
雑賀公美子	国立がん研究センター

敬称略

# 健康増進事業としての 地域住民がん検診として推奨されるまで

有効性評価

- 有効性評価に基づくがん検診ガイドラインの作成（国立がん研究センター）

導入可否の検討

- がん検診のあり方に関する検討会（厚生労働省）で議論

指針\*  
に導入

- 全国自治体での実施が認められる

- HPVテストは子宮頸がん検診として有効か？  
（何歳から何歳まで？）  
（検診間隔は？）

これらだけが決まる！  
検診のアルゴリズム等は決まらない

本研究班  
ガイドラインで検討されている検診手法のアルゴリズムのパターンの検討  
（検討会への資料提供）

ガイドラインで有効性が認められなかった検診手法のアルゴリズムは資料としては採用されない

\* 指針：がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

# 「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」

## □ HPV検査の導入を決定する基準や根拠の検討

- 細胞診単独法との比較による有効性評価
- 自国のデータによる妥当性の評価  
(検診の不利益の評価も含む)
- 自国での実現可能性 (feasibility) の検討

## □ 検診内容やアルゴリズムに関する検討

- 検診対象者 (年齢)、検診間隔の検討
- 検診プログラムの手順と運用方法(アルゴリズム)の検討

## □ 検診の運用体制に関する検討

- 検診/精検のデータ収集・管理体制の検討  
(プロセス指標)
- 精検/追跡対象者の管理体制の検討
- 新たながん検診の導入に必要な準備プロセス

# 「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具体的な運用方法の検討」

## □ HPV検査の導入を決定する基準や根拠の検討


- 細胞診単独法との比較による有効性評価
- 自国のデータによる妥当性の評価  
(検診の不利益の評価も含む)
- 自国での実現可能性 (feasibility) の検討

## □ 検診内容やアルゴリズムに関する検討

- 検診対象者 (年齢)、検診間隔の検討
- 検診プログラムの手順と運用方法(アルゴリズム)の検討

## □ 検診の運用体制に関する検討

- 検診/精検のデータ収集・管理体制の検討  
(プロセス指標)
- 精検/追跡対象者の管理体制の検討
- 新たながん検診の導入に必要な準備プロセス



有効性に基づく  
子宮頸がん検診  
のガイドライン

本研究事業の  
検討範囲

## 本研究の方法

### 1. 国内外の子宮頸がん検診のアルゴリズムとその精度管理体制についての検討

- I 「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン」の評価対象となったランダム化比較試験で採用されたアルゴリズム
- II 国のプログラムとして導入されている検診のアルゴリズム
- III 上記以外のガイドライン等に掲載されているアルゴリズム
- IV わが国の検診の評価研究で用いられているアルゴリズム

それぞれについてアルゴリズムの構造、検診手法と検診結果、精密検査の種類とその施行時期、各検査の対象者の割合、受診率などについて調査した。

### 2. 検診・精密検査のデータの収集とその管理体制についての検討

### 3. 新たながん検診の導入のための準備のプロセスについての検討



# フォーラムのアジェンダ

- ▶ がん検診の精度管理と「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」について

中山 富雄（国立がん研究センター）

- ▶ 子宮頸がん検診の検診プログラムの手順と運用方法（アルゴリズム）の調査  
モデレーター：青木 大輔

- HPV検査と子宮頸がん検診

藤井 多久磨（藤田医科大学）

- 現状の精度管理状況も鑑みたアルゴリズムの検討で明らかとなった課題

森定 徹（慶應義塾大学）